

# 見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

October 2015 vol.18

S	M	T	W	T	F	S
						1
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## ◆ きよす 清洲公園

所在地：清須市清洲

交通：名鉄本線「新清洲」駅北東約1km

清洲は戦国時代に織田信長が拠点を置き、桶狭間の戦いなどの指揮を取った場所で、次男・信雄の時代には城の拡張が積極的に行われ、城下町の人口は6万人にも及び、東海の重鎮と呼ばれる大都市となりました。やがて徳川家康の命による「清洲越し」で町ごと移転し、一時衰退しますが、その後、美濃路の宿場町「清洲宿」として再興します。

明治24（1891）年に発生した濃尾地震では、清洲でも大きな被害を受けており、当時の新聞報道では「清洲の惨状最甚しく家屋の存するもの殆んど稀なり」と記されているほどです。清洲公園内には、この濃尾地震からの復興を記念した大地震記念碑が建立されています。碑表には「大地震記念碑」と大きな文字で書かれており、碑裏には「明治二十四年十月廿八日大地震圧死者姓名」として、新明町24名、永安寺町8名、十軒町6名の個人名と、その他26名の死者があったことが刻まれています。発起人は「新明町有志者 外永安寺十軒町有志者」とあります。

記念碑の建立にあたり、1892年11月14日には震災一周年の追吊（追弔）会が催され、その様子は新聞『新愛知』1892年11月18日号で、「清洲町震災吊祭の景況」と題して報じられています。記事では、会の様子を「当日は早天より城山の震災記念碑に大小紅白の無数の旗を西風に翻し、紅燈数百を富士山形に高く掲げ、餅・菓子・菜菓を供へ、正午十二時各宗僧侶数十名打揃い、追吊祭を行いた

り、又同地清遊吟社の画賛発句の懸行燈五十個を建て、五條橋畔に獅子舞あり、河原には寄合角力あり、又生花及び作り物等の催しもありて、当日は好天気なりしかば、同地近傍二三里の遠きより老若男女群集し、頗る賑はひたりといふ。」と報じており、記念碑の建立に合わせて、復興に全力を挙げてきた1年間の労苦を解き放ち、大々的な祝賀行事が行われた様子がかがえます。

濃尾地震は火災の被害の少ない地震でしたが、全県で191戸の焼失家屋のうち、159戸は清洲を含む西春日井郡で、街道沿いの町場が被害の中心であったといわれています。（特に枇杷島周辺の火災被害が大きかったようです。）

美濃路沿い、清洲公園の西にあった清洲宿の本陣は、將軍上洛、大名参勤などの休泊所となり、1878年には明治天皇一行も小休止した、美濃路の中でも最も豪壮な建物でしたが、濃尾地震の際に建物が倒壊し火災に遭っており、現在ではわずかに免れた正門のみが縮小して再建され、唯一の名残となっています。

清須市地域資料アーカイブでは『濃尾大地震 写真帳 西春日井郡被害の實情』（酒井金一・著）がデジタル化されて公開されており、西春日井郡の被害の様子を写真で見ることができます。

また、名古屋大学減災館には、清洲公園の五条川堤防で剥ぎ取りをした天正13（1586）年天正地震の液状化の痕跡の標本が展示されています。



大地震記念碑



◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 清洲公園の周辺には…

### ● 法性寺

所在地：あま市新居屋善左屋敷

交通：名鉄津島線「七宝」駅北東約1km

法性寺は、天正13(1586)年天正地震の際に、本堂のほか周囲約300m内にあった二王門、大日堂、十王堂、弥勒堂、阿弥陀堂、毘沙門堂などもことごとく破壊したとされています。



### ● 甚目寺

所在地：あま市甚目寺東門前

交通：名鉄津島線「甚目寺」駅南西約200m

甚目寺は、天治元(1124)年の地震の際に倒壊しています。天正13年天正地震でも本堂が倒壊しています。明治24年濃尾地震の際には、本堂をはじめ、釈迦堂、大日堂、阿弥陀堂、聖天堂、薬師堂などの諸堂が倒壊しています。また、この地震の際には、門前の商家もことごとく倒壊しています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>)をご覧ください。

## ★ 清洲城信長まつり

清須市では清洲城を舞台に、10月いっぱい清洲城信長まつりが開催されます。

平成27年のメインは10月11日で、手作り甲冑の時代行列や火縄銃の演舞のほか、ステージショーやキャラクターショーが催されます。また、前日の10日には「第26回織田信長サミット」が開催され、清洲市民センター会場では、基調講演において、明智家の血筋を引くと言われる作家・明智憲三郎氏による「桶狭間の合戦 信長必勝の作戦」の講演が行なわれるほか、清洲城広場会場では、清洲城信長まつり前夜祭として、西川流家元と清須市民和太鼓の競演によるオリジナル舞踊「出陣の舞」が披露されます。



## 10月のあいちの花

平成27年10月のあいちの花はバラです。バラは北半球の温帯域に広く自生しており、チベット周辺、中国の雲南省からミャンマーにかけての地域が原種の自生地です。農薬のかかっていないバラの花弁は、生食したり、花びらや実をジャムや砂糖漬けに加工したり、乾燥させてハーブティーとして飲むことができます。近年は花言葉を「奇跡」「夢かなう」とする、青いバラの開発が進んでいます。



## ●ブレイクタイム●

### ♪ 愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

清須市から名古屋市西区にまたがる地域に、弥生時代を代表する遺跡のひとつ、朝日遺跡があります。朝日遺跡は弥生時代に西方からやってきた弥生人が生活を営んだ場所で、南西部にあたる貝殻山貝塚は、この地に集落を開いた人々が最初に居住した場所とされ、貝塚を中心とした地域が昭和46年に国の史跡に指定されています。また、平成24年には、出土品一式が国の重要文化財に指定されています。

この貝殻山貝塚にある清洲貝殻山貝塚資料館には、貝殻山貝塚や朝日遺跡から出土した弥生時代を代表する考古資料が収められており、東海地方でも豊富に弥生時代の資料を見ることができる資料館となっています。



「ファミリー行楽ガイド」HP  
(<http://kouraku-g.info/aichi/kaigarayama/text.html>)より

『愛知県清洲貝殻山貝塚資料館』

所在地：清須市朝日貝塚1(は表面)

交通：名鉄本線「新清洲」駅徒歩30分  
(開館は水・木・金・土)

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会(仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年10月)